

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677600126
法人名	社会福祉法人 誠心会
事業所名	グループホーム 南松園
訪問調査日	平成20年4月11日
評価確定日	平成20年5月12日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677600126
法人名	社会福祉法人 誠心会
事業所名	グループホーム 南松園
所在地	肝属郡錦江町田代川原430番地1 (電話) 0994-25-2364
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(平成20年3月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	9,300 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4			
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 81.4 歳	最低	75 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	濱畑クリニック 肝属郡医師会立病院 神田歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大隅半島南部の美しい自然環境の中、地域の医療・介護を支える施設郡の一角に建てられたホームである。食事の際の挨拶や畑仕事の指導、ドライブのプラン立案など、入居者それぞれに担当を決めていただきながら、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。地元の方々とは、運営推進会議をはじめ日常的にもお付き合いがあり、近くの独居高齢者には、安否確認を兼ねてこまめに声かけを行うなど、地域との良好な関係作りに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	同業者との交流について、大隈地区グループホーム連絡協議会に入会を果し、今後研修会等に参加することで同業者と交流を図り、更なるサービスの質向上のために取り組むように努めている。他の改善課題についても、実施予定のものを含めて前向きに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	全員参加の職員会議で話し合いながら自己評価を行い、外部評価の結果についても、全員で検討し、改善に向けて取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	2ヶ月に1回の運営推進会議において、入居者のご家族や近隣住民・行政の参加を得ながら、ホームの状況を報告し、質問があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。今後は、警察や消防の参加も検討している。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	玄関に意見箱を設置し、運営推進会議にはご家族の参加もあるが、多くの意見や要望を聞くための機会は十分とはいえない。ご家族アンケートを実施する計画もあることから、より多くの意見・要望・苦情等が表出され、サービスの質向上に反映されるように期待したい。
	重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、家庭的な雰囲気と温もりを大切に、ホーム独自の理念を作りあげている。地域の中で暮らし続けることを支えるという文言は、今のところ明記されていない。	○	地域密着型サービスの意義を再確認し、現行の理念に加えて、地域の中で暮らし続けることを支えて行く姿勢を反映したものになるように検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やダイニング、ステーション内に、理念を掲示すると共に、月1回の職員会議で言葉使いや処遇について、理念に基づいて実践しているか、自分の身に置き換えて振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園や幼稚園の運動会見学に出かけたり、同法人のデーサービス利用者と共にレクリエーションを楽しんだりしている。また、近隣の方に訪問してもらって一緒にお茶を飲んだりするなど、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員参加の職員会議で話し合いながら自己評価を行い、外部評価の結果についても、全員で検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において、入居者のご家族や近隣住民・行政の参加を得ながら、ホームの状況を報告し、質問があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるよう取りに組んでいる。今後は、警察や消防の参加も検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者へ質問や相談をしたり、ホームの状況報告を行うと共に、ホームに立ち寄ってもらい入居者の暮らしぶりを見学してもらうなど、交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と共に、金銭出納帳のコピー・診察結果や暮らしぶりについてのコメント・写真をご家族へ郵送しており、職員の異動についても報告しているが、運営推進会議の報告や、ホーム便りの発行は今のところ行っていない。	○	ホーム便りを利用して、ホーム全体の取り組みや現状報告を行い、加えて運営推進会議や評価の話題などを、ご家族の皆様積極的に情報提供していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、運営推進会議にはご家族の参加もあるが、多くの意見や要望を聞くための機会は十分とはいえない。	○	ご家族アンケートを実施する計画もあることから、より多くの意見・要望・苦情等が表出され、サービスの質向上に反映されるように期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規入職者は、はじめ入居者と同じように過ごしながらコミュニケーションを深めて、段階的に馴染んでからケアに携わるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を毎月受講しており、外部研修に参加した者は職員会議で報告会を行っている。また、ホーム内での勉強会を、担当者を決めて毎月行い、学びの機会を作っているが、段階に応じた育成計画は今のところ具体化されていない。	○	各職員の知識や経験、役割に応じて、段階的に育成するための研修体制を整備し、より計画的に学びの機会が確保できるように取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム連絡協議会に入り、研修会等に参加することで同業者と交流を図り、サービスの質向上のために取り組むように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学してもらったり、職員が自宅を訪問するなど、段階を経て馴染めるようにすると共に、入居後も、それまで利用していたホームヘルパーにホームを訪ねてもらいながら、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話しや方言について尋ねたり、畑での野菜作りの方法を学んだりしてアドバイスをもらう機会を設け、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や日々の関わりの中で希望や意向を聞いたり、外出やレクリエーションの内容を決める際に、入居者の中からリーダー役(「会長」と呼んでいる)を決め、入居者だけで話し合いを持っていただき、意向の表出しやすい機会を作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で検討の上作成した原案をご家族に見ていただき、意見や要望を取り入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個人記録に記載された日々の状態を参考にしながら、担当者会議や処遇会議で話し合い、状態の変化時や定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体医療機関や隣接する同法人の福祉サービス事業と連携を取りながら、柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関受診の際は職員が同行して日々の状態報告を行っており、受診結果や月2回の訪問診療の結果はご家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について、ご家族とかかりつけ医を交えて話し合い、質問等がある場合はその都度十分に説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に個人情報の取り扱いについての指導が行われ、誓約書を交わしている。また、理念に基づいて尊厳を重視することを努力目標に掲げており、言動には特に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間にとらわれずに、今までの生活リズムを尊重し、一人ひとりの状態や希望に合わせて起床や食事が出来るように柔軟に対応しており、毎朝の遺影へのお供えなども希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時と、その後年に1回は嗜好調査を行っており、職員や入居者の意見や希望を聞きながら、なるべく季節の食材をメニューに取り入れている。また、食事前後の挨拶は、当番を決めてリードしていただき、職員と一緒に語らいながら食事を楽しむように心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回と決まっているが、季節や入居者の状態や希望に応じていつでも入浴できるようになっている。また、その日の入浴の順番はダイニングに表示しており、トラブルにならないように配慮している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブに行く際は、入居者にプランを提案してもらっている。また、ゲートボールの道具や農具も備えてあり、一人ひとりの力量や経験を活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を兼ねて無人販売所へ出かけたり、ご家族との旅行や自宅への外泊等、なるべく戸外に出かけられるように積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、開放的なホーム作りを目指している。身体拘束に関する研修も行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、火元の想定場所を変えたり、浸水等の災害も想定して行っている。また、実際に起きた近所の火災を教訓として、同法人職員の協力要請も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士に相談しながら献立の原案を作っており、排尿・便・食事チェック表に、食事摂取量と水分摂取量を記録して摂取状況の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたダイニングの横にソファのコーナーや和室があり、気の合う者同士が集える空間で居心地よく過ごせるように配慮されている。また、玄関横に、皆で集えるデッキの設置も予定されており、自然を満喫しながら過ごせるように支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・こたつ・植木鉢・神棚・位牌など、自宅で使っていた馴染みの物を持ってきていただき、好みの壁飾りをするなど、思い思いの居室空間が作れるように配慮されている。		